

所 属	農学生命科学部	氏 名	本多 和茂
課題名	青森県における花卉および花卉資源における新たな価値の創造と付加価値向上		
<p>1. 概 要</p> <p>青森県の冷涼な気候環境を活かした花卉の生産振興を図るため、新たな花卉資源の導入や新たな品種育成に繋がる育種・培養技術の開発を試みる。花卉園芸における新たな価値の創造のためには独自性が不可欠でオリジナリティが求められる。これまでにない花色といった新規性だけではなく、生産者が栽培しやすいあるいは消費者が扱いやすいといった新たな付加価値を付与することも視野に入れる。また青森県内に自生する植物には花卉資源としてだけではなく、薬医用の資源としても可能性を秘めたものもあり、その探索～可能性を明らかにすることは県内の園芸生産の新たな展開を推進する。一方、身近な花卉資源として、弘前公園のサクラ、これは日本のみならず、世界に誇れるものといっても過言ではないであろう。この弘前公園のサクラの開花や管理、今後の新たな品種育成に係る知見の集積も、身近でかつ重要な地域貢献と考えている。</p> <p>1. デルフィニウム属野生種および系統の遺伝的多型を識別とこれまで導入あるいは作出した有望系統の品種化に向けた取り組み</p> <p>昨年度までに、これまで交雑が不可能であった組合せにおいて胚珠培養を用いることにより、さらにいくつかの新たな系統の作出に成功した。現在その特性の評価および花卉で重要となる可視形質の一つである花色について解析を進めている。また作出されたオリジナル系統の育種素材利用可能性について、さらに取り組みを進めたい。</p> <p>2. 機能性成分を有する本県カタクリの栽培・増殖化と遺伝的多様性の検証</p> <p>昨年度までに、産技センターと共同で進めたカタクリの健康機能性有用成分について、一定の成果を得、引き続き有用成分を明らかにし、成分特許の出願に向け取り組みを進めている。また、栽培・増殖化にむけた取り組みについては、昨年度までのモニタリング調査～データ解析を進め、栄養体を用いたより効率的な増殖にむけた興味深い知見を得つつある。さらに球根や種子について、従来の園芸的利用の問題点を明らかにし、その課題に取り組むことで、その可能性や魅力の再発見に繋げたい。</p> <p>3. 弘前公園さくら研究・育成事業に係る調査研究（受託研究：弘前市都市環境部公園緑地課）</p> <p>弘前公園におけるサクラの新たなオリジナル品種育成のために必要となる交雑由来種子の発芽促進、枝垂れ桜の樹形管理・改善手法の検討、より早期のサクラ開花予測を可能にする生物季節的新モデルの構築について着手し、徐々に成果を得つつある。これまでに蓄積されたノウハウやデータを活用するための、新たな手法の開拓も視野に入れ、さらなる発展を目指す。</p>			